

## 子どもたちの笑顔のためにできることを ～国見小学校～

仙台市国見小学校は、昭和 29 年に開校し、今年度で開校 70 周年を迎えます。大崎八幡宮をはじめとする歴史的建造物や、東北福祉大学、東北大学の留学生が寄宿する国際交流会館など、多様で豊かな学びの環境を持ち、地域素材や人材の活用が盛んに行われています。

今回は、5 年生家庭科の調理実習「じゃがいもの調理」で、地域の方々がボランティアとしてサポートされる様子を取材しました。

授業をサポートしてくださるのは、学校支援地域本部スーパーバイザーとしてボランティアのまとめ役を担う松崎さんと、3 名の保護者ボランティアの方です。

松崎さんは、令和 3 年度から国見小学校のスーパーバイザーを務め、学校支援地域本部「さぼーと小萩」の立ち上げ時から様々な形で、学校と地域との協働による活動や子どもたちの学習支援活動を行っています。

調理実習が始まると、松崎さんやボランティアの方々は子どもたちの傍で調理の様子を見守り、困っている様子が見えたときには、優しく声を掛けてアドバイスします。上手にじゃがいもの皮がむけるようになった子と一っしょに、手を叩いて喜ぶ姿も見られました。

子どもとの関わり方で心掛けていることを松崎さんに聞くと、「学年によっても関わり方を変えるようにしています。5 年生になるとかなり自立してきているので、基本的には見守るようにして、困った様子や仕草があれば助ける、という姿勢が、子どもたちの成長のためには良いと感じています。」と話してくれました。

松崎さんやボランティアの方が見守ってくれていることで、けが無く学習を行えることはもちろん、はじめはおそるおそるピーラーや包丁を扱っていた子どもたちも、徐々に安心して調理に取り組む様子が見られました。



ボランティアさんと一緒に「今日の目標」を確認



子どもたちの調理の様子を見守るボランティアさん

国見小学校の児童にも、地域の温かい見守りやサポートの姿勢は伝わっています。地域の方が関わってくれることについて、子どもたちに聞いてみると、「活動中に優しく声を掛けてくれてうれしかったし、心強い」、「登下校中に挨拶してくれると安心する」といった声を聴くことができました。

また、ボランティアに参加した保護者の方からは、「家庭や授業参観で見るとは違う、子どもたちの学校での素の様子を知ることができた。参加してよかった。」といった声が多く上がりました。

学校支援ボランティアは、子どもたちが安心して成長できる環境づくりに寄与するとともに、活動に参加した保護者や地域の方にとっては、子どもや学校への理解を深める貴重な機会となっていることを実感しました。

学校・保護者・地域のつながりの場として、松崎さんが令和 4 年度に新たに立ち上げたのが、学校運営協議会を中心に様々な団体が集まった「学びのコミュニティ小萩」です。

松崎さんは、「子どもたちに関わる様々な人たちが、子どもたちのためになることで、それぞれにやりたいことを実現できる場に育てていきたい」と語ります。



スーパーバイザーの松崎由美子さん

その思いの実践のひとつが、学びのコミュニティ小萩が企画した、「小萩まつり」です。

このお祭りは、コロナ禍で子どもの遊び場が少なくなっていた状況を受けて、「子どもたちが楽しめる体験型のお祭りをプレゼントしたい」との思いから企画され、学校や学校支援地域本部だけでなく、市民センターや社会学級、東北福祉大の学生ボランティアなど、様々な団体が連携して開催されました。

松崎さんが繰り返し口にされていたのは、「子どもたちの笑顔のためにできることを」という言葉です。その思いが、地域のたくさんの大人同士を結びつけて、子どもたちを支援する地域の輪を広げています。



国見小学校の特色ある地域学校協働活動「小萩まつり」の様子

学校でいじめ対策担当教諭を務める蘓武教諭は、「学校活動に参加いただいた地域の方は、学校以外の地域の場でも、子どもたちに挨拶や声掛けをしてくれている。地域の中で、知っている・関わったことのある大人から声を掛けてもらうことは、子どもたちの安心につながっている。」といます。

学校だけではなく、地域全体で子どもたちが安心して成長できる環境をつくるとともに、地域内での新たなつながりをつくっていく——国見小学校と地域との協働は続いています。



「様々な場面で、地域からの支援の大きさを実感している」と話す宮崎校長（右）と蘓武教諭（左）

※関連リンク：  
国見小学校  
ホームページ

